

第11回日本学術会議会員候補者推薦投票について

標記に関連し、別記のとおり立候補者の届出がありましたので、さきの告示（天気 Vol. 24, No. 4, p. 247）により投票を行ないます。

1) 「天気」昭和52年5月号（Vol. 24, No. 5）折り込みの所定の投票用紙に第11回日本学術会議会員（全国区）の候補推薦者氏名を2名連記無記名の上、以下の方法で投票すること。

2) 投票用紙は必ずノリヅケ密封の上、外封筒（形式は自由）に密封して、昭和52年6月20日までに必着するよう郵送（50円切手貼付）又は選挙管理委員会で指定した投票箱（気象庁海洋課内）に投入すること。

宛先

東京都千代田区大手町 1-3-4
気象庁海洋気象部海洋課気付
日本気象学会選挙管理委員会

3) 外封筒には、必ず投票者の所属地区名と氏名を下記要領で記入すること。

例

○ ○ 地 区
甲 野 太 郎

(注)

下記の場合は無効投票となりますから注意して下さい

- (1) 投票者が日本気象学会の通常会員でないとき。
- (2) 3名以上の推薦者氏名を記入したとき。
- (3) 所定の投票用紙を用いないとき。
- (4) 投票用紙及び外封筒が密封されていないとき。
- (5) 投票者の所属地区及び氏名が記入されていないとき。
- (6) 所定の期日までに到着しないとき。
- (7) 1つの外封筒に2枚以上の投票用紙が入っているとき。

日本気象学会選挙管理委員会

委員長 半沢 正男

委員 小林隆久, 西山勝暢, 藤木明光,

宮園実康, 吉崎正憲

[別記]

候補者名、略歴、所信と抱負（受付順）

候補者氏名 高橋 浩一郎
生年月日 大正2年5月3日
主な勤務機関 気象大学校（講師）
卒業学校名、年次 東京大学（理学部物理学科）
昭和11年卒業
種 類 全国区
専門別 第4部、地球物理学
住 所 東京都世田谷区成城 6-26-14
推せん人（アイウエオ順）
大田 正次
気象庁予報官有志
(新田尚, 松倉秀夫, 宮沢清治外30名)

所信と抱負

近年社会は大きな変動期にあります。人口、エネルギー、食糧、気候変動など多くの難問題があり、この場合、気象学のはたす役割りは大きいものがあります。そして、それへの対策を考えることが科学者・技術者のひとつの重要な任務であり、日本学術会議はそれらを検討するひとつのよい場と思います。

多くの方々の強いおすすぬめがあり、微力ではありますが、年の功ということもありますので、できるだけことはしたいと思っております。

候補者氏名 神山 恵三
生年月日 大正6年1月18日
主な勤務機関 東京農工大学（研究科・大気環境講座）

1977年5月

卒業学校名、年次 気象技術官養成所、昭和14年
 種類 全国区
 専門別 第4部・地球物理学
 住所 東京都新宿区戸山町43,
 戸山ハイツ27-202

推せん人(アイウエオ順)

市村市太郎

稲浦 昂, 内山 徳栄, 大井 正一, 岡林 一夫,
 奥田 稷, 葛城 幸雄, 上代 英一, 川村 清,
 北川信一郎, 小林 正治, 当舎万寿夫, 根本 修,
 福田 佳男, 福森 秀男, 藤井 幸雄, 藤田 敏夫,
 藤原 美幸, 矢野 直

所信と抱負

国民の生活に直結する末端気象官署の廃止や気象現象の実態を無視した中央集権化に典型的に見られるように、気象学をはじめとする諸科学の方法と論理が行政に不当に侵害されています。また、ある一部の大型研究のみに集中的に出されるが、基本的な講座費予算はますます切りつめられ、正常な教育研究が危機に瀕しているという大学での状況があります。

これらは国の科学・技術政策が真に国民の方向をむいているものでもなく、また、科学を正しく調和をもって発展させたいとする多くの科学技術者の方向をむいているものではないことの典型的なあらわれだと思えます。

「大気環境」を研修する一員として、今まで通り気象分野からの学術会議会員として、皆様のご支持のもとで、粉骨砕身し、そうした潮流に抗して最後の努力を尽くしたいと思えます。

候補者氏名 増 田 善 信
 生年月日 大正12年9月11日
 主な勤務機関 気象庁予報部電子計算室
 卒業学校名、年次 気象技術官養成所研究科 昭和24年
 種類 全国区
 専門別 第4部 地球物理学
 住所 東京都世田谷区梅丘 2-25-18

推せん人(順不同)

小林 典謙, 奥田 稷, 大西 晴夫, 岡林 一夫,
 当舎万寿夫, 藤原 美幸, 藤田 敏夫

所信と抱負

学術会議第61回総会は「科学のための科学から人間のための科学への転換」をおごそかに宣言しました。ところが、通報所全廃問題に関連して秋田県横手市の千田市長が「こんな役所はみたことない」と批判したように最近の気象庁は国民のための行政から離れつつあります。このような中で気象庁内の技術者の中には希望を失っている人も出ています。

一方、気象学会の決議を得ながらも、気象学の講座も仲々ふえず、大気物理研究所の設立もまだ実現せず、折角大学を卒業した研究者を受け入れる場所も少なく、頭脳流出を余儀なくしています。

故坂田昌一先生が「科学の論理を政治の論理へ」と言われたように、政治の論理が科学の論理を曲げるような今の体制を改め、本当の意味で「人間のための科学」が追求できるような方向を築くため微力をつくしたいと思えます。